

福山平成大学経営学部紀要
第14号(2018), 119-133頁

公認会計士試験等の受験指導法に関する実践報告

佐藤 幹

福山平成大学経営学部経営学科

要旨：本稿は会計系の難関資格試験の受験指導及び学習方法を模索しつつある過程で、得られた知見や取組み上の考え方の一部をまとめたものである。

公認会計士試験は効果的で効率的な学習方法で取り組むことにより、大学受験の偏差値が50程度の学部学生でも十分に合格可能性があることを示唆した。

また、日本商工会議所簿記検定は、公認会計士試験のレディネス・テストであること、しかも、3級、2級、1級と段階的に取得していくことで、小さな達成感を得ながら、継続的に学習することが可能であることを、改めて認識できた。

加えて、地方在住の大学生は、公認会計士試験受験の主流となっている受験専門学校に通うことが困難であり、また、全面的に専門学校に頼るとなると、かなり高額な経済的負担がかかる。これらの難点を解消するために、専門学校に頼り切らない受験勉強を行う工夫も行ったので、途中経過ではあるが、実践報告としてまとめることとしたものである。

キーワード：公認会計士試験、日商簿記検定、チャレンジゼミ、教育評価法、心理学

はじめに

本学には「チャレンジゼミ」¹という特徴的なゼミナールがあり、今年度、初めてこのゼミを担当している。筆者は、会計教育の充実のために、教育評価法や心理学の知識も参考にし、会計系の難関資格試験等の受験指導も行いながら、効果的で効率的な学習法を模索している。

このゼミでは2年次生から日本商工会議所簿記検定試験²（以下、日商検定と略す。）の受験指導を行っており、2017年11月の日商検定1級を受験する学生もでてきて、いよいよ来年からは公認会計士試験（以下、会計士と略す。）の受験指導をすることになる。

そこで、既に確立させた日商検定の学習方法を踏まえて、会計士の受験指導の準備の状況と現在の取組上の考え方をまとめた。

¹ http://www.heisei-u.ac.jp/faculty_info/2017/0410_161321.html

² <https://www.kentei.ne.jp/bookkeeping>

第1節 公認会計士試験で求められる能力

会計士においては、以下のような視点で受験者を評価することとなっている。

「短答式試験は、出題範囲で示されている全体から出題することとし、論文式試験を受験するために必要な知識を体系的に理解しているか否かを客観的に判定する試験とする。論文式試験は、公認会計士になろうとする者に必要な学識及び応用能力を最終的に判定する試験とすべく、特に、受験者が思考力、判断力、応用能力、論述力等を有するかどうか」³重点を置くとしている。

この意味するところは、果たして如何なるものであるかを、以降の各節・項で吟味していきたい。

第1項 レディネス・テストとしての日本商工会議所簿記検定試験

会計関係の資格試験の大きな特長としては、日商検定の存在がある。日商検定では段階的に初級から始まり、3級、2級、1級と徐々にレベルアップし、簿記・会計及び原価計算（会計士短答式試験の受験科目で対応するものは、財務会計論と管理会計論である。）の知識とスキルの向上を把握できるところにある。

日商検定2・3級は大学受験の偏差値が60程度の学生であれば、1～2カ月で合格レベルに到達できる。例えば、2級については、「私が勤務する明治大学経営学部の学生の場合、1か月集中して勉強すれば取得できます」（鈴木、2015、p.180）という記述があり、筆者も共感している。なお、日商検定の学習方法については付録1を参照されたい。

最近の大きな気付きとしては、大学入試の受験勉強に加えて、日商検定も会計士のレディネス・テスト（橋本、2003、p.157）として位置づけることが、意義深いということがある。

第2項 公認会計士試験

この試験は受験偏差値が60程度の学生が大学在学中の早いうちから受験勉強をはじめ、専門学校を活用し、約80万円の受講料を支払い、1日8～12時間の受験勉強を2年程度継続できた者の内、約半数が合格できるといったレベルの試験である。

1 日商検定1級と会計士短答式試験のレベルと範囲

会計士は短答式試験（以下、短答式と略す。）と論文式試験（以下、論文式と略す。）の2段階の試験として構成されている。短答式の科目は財務会計論、管理会計論、監査論、企業法の4科目である。このうちの前2科目と日商検定1級のレベルと範囲を比較してみたい。

1級の受験科目は、付録1にも示しているように商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算である。短答式では科目名は異なり、対応するのは財務会計論と管理会計論である。

計算の難易度という点では、両者はほとんど変らないが、範囲では短答式の方が少し広

³ <http://www.fsa.go.jp/cpaaoob/kouninkaikeshi-shiken/hani30-a/01.pdf>

い。ただ、理論問題の範囲は、短答式の方が幅広い知識を要求されている。

一方、短答式の監査論と企業法は、日商検定1級には含まれず、両方とも理論科目で、かなりの量の知識を記憶する必要がある。

したがって、短答式の財務会計論と管理会計論は日商検定1級プラスアルファでほぼカバーできるが、監査論と企業法は新たに多くの知識の詰め込みを要し、両科目を合格できるレベルまで学習するには、合計で300時間程度を要すると考えられる。

2 論文式の受験科目とレベル

論文式の受験科目については、公認会計士・監査審査会のウェブサイト⁴をご覧ください。できれば分かるが、監査論、租税法、会计学（短答式の受験科目との対応でいえば、財務会計論と管理会計論）、企業法及び選択科目の5科目である。ここでご注意いただきたいのは、企業法とは会計士の受験科目名のこと、法律名でいうと、会社法と商法及び金融商品取引法の一部から出題されるものである。

選択科目については、ほとんどの受験生が管理会計論に内容の近い経営学を選んでいる。大学で経営学を学んでいれば、若干ながらメリットもある。

3 受験生の推定学力レベル

公認会計士三田会の会計士大学別合格者数調⁵のデータと専門学校合格体験記の情報から判断すると、平均的には大学受験偏差値60程度の大学生等が、合格圏内に入ることのできる主な受験生であると考えられる。

4 学習時間の推定レベル

直前期に必要なとされる学習時間数は個人によってかなり異なるが、平均的には、合格直前の1年間で3,000時間を学習にあてることができる者に、合格の可能性が見えるといったレベルである。留意していただきたいのは、何年もかけて3,000時間以上勉強しても合格可能性は高まらず、直前の半年、1年間で如何に多くの効果的かつ効率的な学習ができるかどうか、鍵を握る試験である。

第2節 各種試験等で求められる能力

本節では、学校教育法上の学力や大学入試改革による大学入学試験の変化の流れ、公務員試験や司法試験で求められている能力についても言及しながら、会計士で求められる、試される能力は何かを考える。

第1項 学校教育法上の学力の3要素

高大接続システム改革では、どのような資質及び能力の育成を目指し、それらを大学入

⁴ <http://www.fsa.go.jp/cpaob/kouninkaikeishi-shiken/qanda/02.html#01>

⁵ http://cpa-mitakai.net/keio_trans.html

学者選抜でどう評価・測定しようとしているのかについては、以下のように考えられている。

「最終報告では、学力について、中教審答申と共通の定義をしている。その定義とは、学校教育法第30条第2項に示された『学力の3要素』であり、それらを社会で自立して活動していくために必要な力と捉え直している。このことを最終報告では、予見が困難で、先行き不透明な、『これからの時代に向けた教育改革を進めるに当たり、身に付けるべき力として特に重視すべきは、(1)十分な知識・技能、(2)それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力、そして(3)これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度』としている。それら『学力の3要素』を、高校で育み、大学入学者選抜で適正に測定し、そして、受け入れた大学ではさらに伸ばして社会に送り出す、という流れが想定されている。」(「高大接続システム改革会議「最終報告」を読み解く」)⁶(学校教育法第29条、30条及び第62条の規定⁷参照。)

第2項 公務員試験の教養科目で試される能力

教養科目は、大きく一般知能分野(文章理解、数的処理)と一般知識分野(社会科学、人文科学、自然科学、時事)の2つに分けることができる。以下では、会計士においても参考になるとと思われる一般知能分野を取上げる。

1 文章理解

各種公務員試験の教養科目において、10問前後出題されている。現代文、古文、漢文、英語から成り立つ文章理解であるが、漢文と古文はほとんど出題されていないようである。

よって、文章理解の科目では、現代文と英文の問題が占めている。

2 数的処理

各種公務員試験における教養試験の一般知能分野で出題される、判断推理、数的推理、資料解釈のことで、これら3つをまとめて、数的処理ともいう。

以上のことから、どちらかという公務員試験は知能検査ではなく適性試験であり、最近のSPI試験と通じるものがあると考ええる。

第3項 司法試験で試される能力

本稿では学部生を対象に4年間の早いうちでの合格を志向しているので、会計専門職大学院の意義については触れないが、原則、法科大学院修了者を対象とする司法試験との関係については、簡単に述べておきたい。

短答式では、会計士と司法試験で共通する科目はないが、論文式では、司法試験の民事系科目の一部である会社法及び商法が、会計士の企業法(会社法、商法及び金融商品取引法の一部)と範囲を共通する。なお、司法試験の選択科目に租税法があるが、会計士の租税法との共通部分はほとんどなく、会計士では計算が主体で、最近の配点割合では6割が

⁶ <http://berd.benesse.jp> 〈ビュー-21〉2016 June

⁷ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/07070908/004/002.htm

計算問題に割り当てられており、税理士試験の税法科目に類似性がある。

したがって、両論文式の共通範囲は、ほぼ会社法のみである。では、両試験での難易度の差は何かというと、求められる知識量の違いである。会計士では通説判例を覚えて、事例に当てはめて記述すればよいが、司法試験では通説判例に加えて、学説・多数説、反対説・少数説を踏まえたうえで、自説を展開する必要がある、やや本格的な論述力を求められるところにある。

なお、法科大学院入学のためには、現時点では、その前に適性試験を受験する必要がある。この試験では、法律知識は問われず、基礎的学力をみるものであり、その内容は、論理的判断力、分析的判断力、長文読解力、表現力の4分野から出題されるものである。

第4項 公認会計士法の規定及び公認会計士・監査審査会が示すもの

このことについてはすでに若干述べているが、公認会計士法では、第8条第4項において、「公認会計士試験においては、その受験者が公認会計士となろうとする者に必要な学識及び応用能力を備えているかどうかを適確に評価するため、知識を有するかどうかの判定に偏することなく、実践的な思考力、判断力等の判定に意を用いなければならない。」と規定している。

また、公認会計士・監査審査会のウェブサイト（既出、注4参照）をみると、短答式は、出題範囲で示されている全体から出題することとし、論文式を受験するために必要な知識を体系的に理解しているか否かを客観的に判定する試験とされる。

論文式は、公認会計士になろうとする者に必要な学識及び応用能力を最終的に判定する試験とすべく、特に、受験者が思考力、判断力、応用能力、論述力等を有するかどうかに関し、評価の重点を置いている。

なお、付録2を参照していただきたい。

第3節 専門学校に頼り切らない学習

地理的・経済的に専門学校とのダブル・スクールがかなわない学部生も多いことと、若干ではあるが専門学校の弊害も一部あるので、本節ではこのようなことについて述べて行きたい。

第1項 受験にかかる費用

専門学校に通わず独修するとしても、書籍等だけで20万円以上はかかる。さらに専門学校に行かなかったとしても、複数の専門学校の模擬試験はできるだけ多く受験すべきであるから、この費用も嵩むし、会計士受験料も高額である。また、直前の1年間は、他のことに費やす時間はないので、アルバイトもできない。したがって、受験にあたっては資金計画をしっかりと考える必要がある。

第2項 専門学校の活用の仕方

現在の検討段階では、短答式合格までは特に専門学校に頼らなくとも、筆者のような大

学教員から指導を受けていれば、十分合格圏内に達することができると考えている。しかし、論文式では、少なくとも部分的に専門学校に頼らざるを得ないのが現状である。それというのも、租税法と経営学に関しては市販の書籍と問題集では対応しきれないからである。そこで、これらの科目については通信制の科目別コースを受講することになる。専門学校によっては合格していない科目の全てを受講しなければならないところもあるので、専門学校の選択の余地が少ないのが現状である。

また、ネットオークションで過年度の教材を入手するのも一つの手段であるが、租税法や企業法の主要範囲である会社法は法改正が頻繁に行われ、しかも改正点が出題されることも少なからずあるので注意する必要がある。

これも弊害の一つであるが、専門学校の教材は、講義を聴いてその内容を付け加えることなく、そのテキストのみを読んだだけでは、理解できないものである場合が少なからずあり、定評のある市販の書籍とは違いがあることに留意されたい。

ただし、大手専門学校のウェブサイトは、受験情報が充実しており、無料で閲覧できるので、頻繁に見ることを心がけるようにしたい。また、次項に付け加えている付録3を見ていただければ分かるように、大手専門学校の市販用の書籍の活用は必須となる。

第3項 使用する書籍等

現時点で、使用することが有用と考えるものを「付録3 会計士試験関係の書籍リスト」として別にまとめている。注意していただきたいことは、最新版を購入することである。ものによれば、毎年改訂版が出る。この付録を参考に書籍等を購入する場合は、インターネット等で最新版であることを必ず確認して欲しい。

第4節 余話

会計士試験の特殊性を理解するにあたっては、大学入試、特に東大入試に関係する多くの書籍類を読み、また、DVDを視聴した。そこで、この「雑録」を締めくくる前に、ブログにアップしていたものを部分的に加除して、そのまとめの一部を付録4として、付け加えたのでご覧いただきたい。

おわりに

本稿は大学紀要向けに執筆した「雑録」であり、実践道半ばのものである。今後、筆者のゼミ生の受験や合格状況も加味して、将来的には書籍としたい。ゼミ生ともども頑張っていく所存なので、温い目で見守っていただければ幸いである。

なお、参考までに「付録5 会計士試験合格の条件」も付け加えておく。

付録

- 付録 1 日商検定の学習方法
- 付録 2 会計士試験で必要とされる能力分析のメモランダム
- 付録 3 会計士試験関係の書籍リスト
- 付録 4 東大と会計士、どちらが難しい？
- 付録 5 会計士試験合格の条件

引用・参考文献等

- [1] 奥村武博 (2017) 『高卒元プロ野球選手が公認会計士になった！』 洋泉社。
- [2] 尾崎智史 (2014) 『難関資格に確実に合格する勉強法』 ぱる出版。
- [3] 勝間和代 (2007) 『無理なく続けられる 年収 10 倍アップ勉強法』 ディスカヴァー・トゥエンティワン。
- [4] 鈴木健一 (2015) 「マネジメント・コントロール」 『経営学への扉 第 5 版』 白桃書房。
- [5] 外山滋比古 (2007) 『「読み」の整理学』 筑摩書房。
- [6] 多田健次 (2009) 『3000 人の指導実績を誇る人気 No.1 カリスマ講師が教える 資格試験の合格技術』 マガジンハウス。
- [7] 坪田信貴 (2015) 『学年ビリのギャルが 1 年で偏差値を 40 上げて慶應大学に現役合格した話』 KADOKAWA。(同 DVD。)
- [8] 中尾宏規 (2010) 『24 週間で独学合格！公認会計士試験マル秘学習法』 税務経理協会。
- [9] 長井敏弘 (2016) 『医学で合格る勉強法』 すばる舎。
- [1 0] 橋本重治 (2003) 『教育評価法概説』 図書文化社。
- [1 1] 三田紀房他 (2007) 『ドラゴン桜公式ガイドブック東大へ行こう！完全版』 講談社。
- [1 2] 三田紀房 (2010) 『ドラゴン桜 全 21 巻』 講談社。(同 DVD。)
- [1 3] 村上宣寛 (2007) 『IQ ってホントは何なんだ？』 日経 BP 社。
- [1 4] 村上宣寛 (2009) 『心理学で何がわかるか』 筑摩書房。
- [1 5] 和田秀樹 (2008) 『受験のシンデレラ』 小学館。
- [1 6] 和田秀樹 (2016) 『受験のシンデレラ DVD ブック』 ブックマン社。(同テレビドラマ版 DVD。)

付録 1 日商検定の学習方法

1 3級の学習方法

(1) 内容

簿記の基礎、受験科目名「商業簿記」の1科目。(詳細については日本商工会議所のウェブサイト参照。他の級についても同じ。)

(2) 学習方法・時間

試験1週間前までに、以下で紹介する教材(約400頁の巻末問題付書籍)1冊を使用して、各章を予習、授業、復習、問題解答の流れで学習する。つまり、同じ内容を別の形で4回繰り返す。授業を受けられない者は、別に販売されているDVD教材を授業代わりに使用する。(DVD教材は全8時間で解説されている。)また、適宜、既に学習した章の復習にも心掛ける。

直前1~2週間前から、同一の予想問題1セット(試験時間120分もの)を3~5回繰り返して、90分で、8割以上の得点ができるようにし、その他の個別論点(予想問題集の第2問及び第4問)のうち5問程度を3回以上繰り返す。

なお、予想問題集中にある記憶すべき基本仕訳の暗記は、できるだけ早めからはじめ、空き時間を見つけては暗記に励む。

これらの時間を積算すると約70時間になるが、これらの学習を検定試験日前の20日~40日でこなす。

(3) 教材

○スッキリわかる 日商簿記3級 [テキスト&問題集] ¥1,026,TAC 出版,第8版 (2017/2/23)

同 DVD 教材 (独習者の場合)

○「第○○回をあてる TAC 直前予想 日商簿記3級」TAC 出版

2 2級の学習方法

(1) 内容

商業簿記初・中級と原価計算の基礎、受験科目名「商業簿記」、「工業簿記」の2科目。

(2) 学習方法・時間

試験3週間前までに、以下で紹介する教材(商業簿記は約600頁の巻末問題付書籍、工業簿記は約400頁の巻末問題付書籍)2冊を使用し、3級と同様に各章を予習、授業、復習、問題解答の流れで学習。授業を受けられない者は、別に販売されているDVD教材を授業代わりに使用する。(DVD教材は全24時間で解説されている。)

直前3週間前から、予想問題(試験時間120分もの)3セットを3~5回繰り返して、90分で、8割以上の得点ができるようにする。この際、工業簿記に重点を置き得点源とできるように頑張る。これに並行して、工業簿記教材の巻末問題をさらに3回程度繰り返す。

なお、予想問題集中にある記憶すべき基本仕訳の暗記はできるだけ早めからはじめ、空き時間を見つけては暗記に励む。

これらの時間を積算すると約180時間になるが、これらの学習を検定試験日前の2~3

月でこなす。

(3) 教材

- スッキリわかる 日商簿記 2 級 商業簿記 [テキスト&問題集] ¥1,026,TAC 出版,第 9 版 (2017/2/20)
- スッキリわかる 日商簿記 2 級 工業簿記 [テキスト&問題集] ¥1,296,TAC 出版,第 6 版 (2017/2/22)
- 各 DVD 教材 (独習者の場合)
- 「第○○回をあてる TAC 直前予想 日商簿記 2 級」TAC 出版

3 1 級の学習方法

(1) 内容

公認会計士試験の実質的な 1 次試験, 受験科目名「商業簿記」, 「会計学」, 「工業簿記」及び「原価計算」の 4 科目。

(2) 学習方法・時間

4 か月～7 か月で, 以下に紹介する教材 8 冊 (各 400 頁程度の巻末問題付書籍) を使用し, 3 回以上繰り返す学習を行う。対応する DVD 教材は販売されておらず, 大学等で該当するレベルの授業がない場合は, 独習することとなる。したがって, 所要時間にもばらつきがある。

直前期は予想問題 5 セット以上を 3 回以上繰り返す。これらの時間を加えると 500～800 時間を要する。所要期間も 4 か月～7 か月である。

ただし, 継続的に学習を続けても 1 級では合格できない者も少なくない。

(3) 教材

- スッキリわかる日商 1 級シリーズ
 - 商業簿記・会計学 全 4 冊 (詳細略)
 - 工業簿記・原価計算 全 4 冊 (同上)
- 「第○○回をあてる TAC 直前予想 日商簿記 1 級」TAC 出版
- 「無敵の簿記 1 級 第○○回直前総まとめ」TAC 出版

4 補足

上記の学習法は, 大学受験偏差値 50 程度の学生を想定しており, したがって, 勉強習慣のついていない者では, さらに時間を要する。逆に偏差値が 60 を超えるような学生で, かつ, 予習重視型の学習に慣れた者であれば, 独習であってもかなり短期で合格できる。

また, 短期間で合格を目指す場合は, 本番の検定試験レベルの問題, つまり, 過去問や予想問題に早めに取り組む, 分からない部分を, テキストの該当部分を読んで理解するという問題解答先行型の学習法の方が良い。

付録2 会計士試験で必要とされる能力分析のメモランダム

ここでは、心理学や教育評価法の知識を踏まえて、会計士試験で求められる能力について分析していきたい。

心理学からの情報の一部

サートン（1887～1955年）は、知能検査などの分野で統計処理の発展に貢献したアメリカの心理学者で、知能の因子分析を行い、次の7種類の分類を導き出した。

1. 言語理解……言葉を使う能力
2. 語の流暢性……なめらかに話す能力
3. 数……計算などの能力
4. 空間……空間的關係の理解
5. 記憶……記憶する能力
6. 知覚速度……知覚するスピード
7. 推理（帰納）…推理する能力

『教育評価法概説』における考え方

絶対評価、相対評価及び個人内評価に分けて、生徒や学生の評価を行うことがあるようである。個人内評価は、横断的個人内評価（異なる目標（能力）間の長短や優劣を明らかにするような解釈の方法）として捉えられ、知能を基準に、これと学力を比較して解釈する成就値や成就指数の考え方であり、読字能力、書字能力、語彙の豊富さ、読みの速さ、文章読解力、計算の正確さと速さ、問題解決能力であるとされる。

ブレインストーミング的に書き出した様々な能力

理解力、思考力、分析力、表現力、説得力、記述力、計算力、論述力、考察力、聴解力、洞察力、throughput（処置力、加工力、操作力）、読字能力、書字能力、語彙の豊富さ、読みの速さ、文章読解力、計算の正確さと速さ、問題解決能力

以上の試行的まとめ

知識は記憶力にかかっており、技能とは読字能力、書字能力、読解力、計算力である。思考力の評価測定は難しい。判断力とはパターン認識力及び計算パターン認識力、（正誤判断：記憶力）といえ、表現力とは記述力だが、実際は借文力、つまりは記憶力にかかるものである。以上のことを踏まえて、「論文式試験を受験するために必要な知識を体系的に理解しているか否かを客観的に判定する試験とする。論文式試験は、（中略）公認会計士になるようとする者に必要な学識及び応用能力を最終的に判定する試験とすべく、特に、受験者が思考力、判断力、応用能力、論述力等を有するかどうかに関し評価の重点を置く」という公認会計士・監査委員会のこの定めに対して如何なる能力が必要かを試行的にあてはめると、現時点では、以下のとおりであると考えている。

短答式

理論科目（財務会計論の理論，監査論，企業法）

読解力，記憶力

計算科目（財務会計及び管理会計の計算）

読解力，記憶力，計算力（パターン認識力を含む）

論文式

理論科目

読解力，記憶力，基準集操作力（関係条文・関連記述発見力），パターン認識力，記述力

計算科目

読解力，記憶力，計算力（パターン認識力を含む）基準集操作力（関係記述発見力）

科目別

監査論

読字能力，読解力，記憶力，基準集操作力（関係記述発見力），パターン認識力，記述力

租税法（理論）

読字能力，読解力，記憶力，パターン認識力，記述力，条文操作力（関係条文発見力）

租税法（計算）

読字能力，読解力，記憶力，計算の正確性・迅速性，計算パターン認識力，関係条文発見力

会計学（財務会計論の理論）

読字能力，読解力，記憶力，基準集操作力（関係記述発見力），パターン認識力，記述力

会計学（財務会計論の計算）

読字能力，読解力，記憶力，計算の正確性・迅速性，計算パターン認識力

会計学（管理会計論の理論）

読字能力，読解力，記憶力，基準集操作力（関係記述発見力），パターン認識力，記述力

会計学（管理会計論の計算）

読字能力，読解力，記憶力，計算の正確性・迅速性，計算パターン認識力

企業法

読字能力，読解力，記憶力，パターン認識力，記述力，条文操作力（関係条文発見力），論理的思考力

経営学（管理論）⁸

⁸ 公認会計士試験では「管理論」と称しているが，経営学（財務論）以外の経営学概論または，総

読字能力, 読解力, 記憶力, 記述力
経営学 (財務論)
読字能力, 読解力, 記憶力, 計算パターン認識力

要約すると会計士試験において求められ、試される能力は、読字能力、読解力、記憶力、記述力及び計算力であり、ここに、記述力とは、迅速・丁寧な記述能力をいい、計算力とは、電卓を用いた正確・迅速な計算ができる能力をいう。

つまり、会計士試験における論理的思考力とは、所詮、記憶力とパターン認識、すなわち、当てはめ力なのである。

大学受験時に経験した人も多いと思うが、英作文ではなく、英借文だったように、会計士試験の理論問題のほとんどは、借文できる記憶力にかかっている。

付録3 会計士試験関係の書籍リスト

<読物, または, 読物として>

さおだけ屋はなぜ潰れないのか? 身近な疑問からはじめる会計学¥756, 光文社 (2005/2/16)
(コミック版もある。)

監査法人¥1,620, TAC 出版 (2010/10/5)

監査論を学ぶ〈第2版〉わしづかみシリーズ¥2,160, 税務経理協会 (2017/1/31)

管理会計入門〈第2版〉(日経文庫) ¥1,080, 日本経済新聞社 (2017/6/24)

1時間で学ぶ! 司法書士の4科目¥980, 東京リーガルマインド (2016/2/18)の「第3編会社法」の部分のみ

<会計士試験短答式問題集>

公認会計士試験 短答式 財務諸表論<平成30年版>¥3,024, 中央経済社 (2017/9/16)

公認会計士試験 短答式 監査論<平成30年版>¥3,672, 中央経済社 (2017/8/26)

公認会計士試験 短答式 企業法<平成30年版>¥3,456, 中央経済社 (2017/10/7)

(以下, TAC 出版短答式問題集)

ベーシック問題集各科目 (財務会計論理論・計算, 管理会計論, 監査論, 企業法) 各 1,700 円程度

アドバンスト問題集各科目 (財務会計論, 管理会計論, 監査論, 企業法) 各 1,700 円程度

(以下, 大原出版短答式問題集)

短答式対策 各科目 (財務会計論理論・計算, 管理会計論, 監査論, 企業法) 各 2,000 円

論のことである。

程度

公認会計士短答式対策問題集 企業法肢別チェック〈2017年版〉¥2,700,大原出版,第3版
(2017/1/1)

短答式対策過去問集〈2017年版〉¥2,700,大原出版 (2017/2/1)

<会計士試験基本書(短答・論文共通)>

スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編¥5,184,中央経済社,第10版 (2017/4/26)

スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ応用論点編¥5,184,中央経済社第10版 (2017/4/26)

スタンダードテキスト管理会計論¥5,400 中央経済社,第2版 (2015/10/15)

スタンダードテキスト監査論¥4,968 中央経済社,第4版 (2016/9/17)

はじめての会社法(公認会計士試験 企業法対策)TAC出版,第4版 (2015/12/22)

国家試験受験のためのよくわかる会社法¥2,700,自由国民社,第6版(2017/6/7)

税務大学校講本 (<https://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/>よりダウンロード)

税法入門, 法人税法, 所得税法, 消費税法

税理士 法人税法 完全無欠の総まとめ¥1,728,TAC出版,2017年度版 (2017/1/23)

税理士 消費税法 完全無欠の総まとめ¥1,728,TAC出版,2017年度版 (2016/11/14)

公務員Ⅴテキスト〈13〉経営学—地方上級・国家一般職・国税専門官対策(公務員Ⅴテキスト)¥1,944,TAC出版,第9版 (2011/8/1)

ざっくり分かるファイナンス 経営センスを磨くための財務 ¥778,光文社 (2007/4/17)

経営学検定試験公式テキスト⑤経営財務¥2,592,中央経済社 (2015/3/26)

<論文式問題集>

公認会計士試験「論文式」監査論 セレクト 30題¥3,240,中央経済社,第5版 (2017/6/17)

<法規集>

新版 会計法規集(第9版) ¥2,268 中央経済社, (2017/4/29)

監査法規集(第4版) ¥2,376 中央経済社,(2015/3/21)

ポケット六法 平成30年版¥2,000,有斐閣 (2017/9/22)

<公認会計士試験用参考法令基準集>

毎年,一般財団法人大蔵財務協会が出版する論文式試験時に配付される参考法令基準集に準拠した基準集で,「監査論」,「租税法」,「会計学」及び「企業法」の各科目のもの。

<資格試験関係のノウハウ本>

無理なく続けられる 年収10倍アップ勉強法¥1,620 ディスカヴァー・トゥエンティワン (2007/4/5)

資格試験に超速で合格る勉強法¥1,512,すばる舎 (2017/4/15)

<会計士試験のノウハウ本>

24 週間で独学合格!公認会計士試験マル秘学習法¥1,296,税務経理協会 (2010/12/1)

3000 人の指導実績を誇る人気 No.1 カリスマ講師が教える 資格試験の合格技術¥1,620,マガジンハウス (2009/4/23)

難関資格に確実に合格する勉強法¥1,512,ぱる出版 (2014/7/15)

高卒元プロ野球選手が公認会計士になった! ¥1,620,洋泉社 (2017/7/19)

(以下、古本として入手可能な名著)

子育て主婦の公認会計士合格記—子どもを産んでから、自分の夢を実現する!中経出版 (2005/01)

付録4 「東大と会計士、どっちが難しい？」

「そんなの比べられない！」とか「東大生でも東大卒でも、ゴロゴロ不合格者がでる会計士試験の方が難しいに決まっている。」と言われそうである。

私は私立大学で管理会計を専門とする教員である。現在、中低位校の大学生を公認会計士試験に上手く合格させるための研究を行っている。もちろん専門分野の研究もしているが、受験偏差値 50 前後の学生をなんとか合格させたいと思い、日々考え続けている。

さて、本題に入ろう。実は東大入試よりも会計士試験は合格しやすいのである。タイトルでの問いかけをもう少し具体的に言い換えてみよう。以下のような感じである。

「普通科の高校で学び、成績は平均よりは良かったが、進路に悩み、大学に進学せず少し興味のある IT 関連会社に就職した。しかし、仕事は雑用ばかりで遣り甲斐のある仕事はさせてもらえない。それに先輩たちをみると高卒では、出世も難しそうだということも分かり、会社を辞めてやり直すことにした。そこで、色々の人からアドバイスを受け、一発逆転を狙うなら東大入試にするか、大学は飛び越えて一気に会計士試験にチャレンジするかに絞った。」としよう。

このような状況下で、この彼 or 彼女が私に相談に来たとしよう。そこで、私は彼 or 彼女に、きっぱりと「会計士試験にきなさい。」と言う訳である。そのココロは？

東大入試で試される科目は多く、範囲も広い。心理学でいう知能の分類からすると、言語的知能、論理・数学的知能、空間的知能についても試される。中・高校で何かの科目につまずきがあって、不得意になってしまっている科目があれば、なかなか挽回できない。そのような科目が複数あれば、東大どころか地方国公立大学さえ（失礼）覚束ない。

会計士試験で試される能力は、実は限られている。まさに「読み書き計算」だけである。（しいて付け加えると、記憶力、読解力、書字能力、読字速度、計算の正確性・迅速性。）特に上述の論理・数学的知能、つまり数学はほとんど不要である（選択科目で経済学や統計学を取る場合は別であるが、経営学ではほんの少し、民法では全く不要である。）、また、英語や古典等の言語的知能を試されることはないし、深い分析力や洞察力もほとんどいらぬ。

専門用語等を正確に記憶する暗記力があれば、それだけでよい。簿記や租税の計算も理論や計算ルールを覚え込んで、ひたすら計算を反復すればよい。時間はかかるがセンスはあまり必要ない。暗記もコツと努力次第である。東大入試と会計士試験で共通して、特に試される能力は精神的な作業速度、ひらたく言うと、正確かつ迅速に物事を処理する能力、特に計算スピードなのである。

簿記を教えていて分かったことは、普通科出身の学生は、ほとんどが大学生になってから簿記をはじめるので、高校までの勉強の蓄積はあまり関係なく、複数の科目が不得意というハンディがあっても、皆がゼロから、つまり白紙からのスタートとなるので、心機一転して頑張れば、簿記でトップになれる。最近はかなり知られてきているが、簿記・会計の計算力が高ければ、合格にかなり有利に働くのだ。なぜなら、会計士試験の論文式では計算問題の配点のウエイトが高いうえに、計算問題は客観的な数字、主には金額を求めて記述するので、得意科目にすれば安定して高得点が狙えるからである。会計士試験に興味があれば、まず日本商工会議所簿記検定3級の勉強をはじめよう。

付録5 会計士試験合格の条件

これまでのことなども勘案した、現時点での筆者の考える合格の条件は、以下のとおりである。

1 生活習慣

衣食住や経済面での心配がなく、毎日3食バランスの良い食事をし、適度な運動習慣を持っていること。また、手洗いやうがいなどの健康的な習慣があり、風邪などの病気にかかることがほとんどないこと。

2 学習環境

ほぼ1日受験勉強を半年以上（できれば2年程度）継続できる学習環境があること。受験勉強以外の誘惑が少なく、あったとしてもそれを排除できること。

3 学力的レディネス

会計士受験勉強スタート時に、受験偏差値50前後以上あること、できれば60前後以上あることが望ましい。また、日商検定2級にスムーズに合格できていること。

4 学習タイプ

予習型学習に慣れていて、基本書を読んで未知の分野の内容を読解し記憶できることに加え、アウトプット学習を優先し、同じ問題集を3回以上繰り返して、やり抜く集中力と忍耐力があること。

佐藤 幹